

韓国人短期留学生の日本留学観の変化に関する一考察

安 龍洙

要 旨

本稿では韓国人留学生3名を対象にPAC分析法を用いて彼らの日本留学観とその変化を探った。その結果、1)「反韓感情」に対してマイナスイメージを持っていること、2)地震や原発事故に対して不安を感じながら留学生活をしていること、3)優しく親切な日本人に対してプラスイメージを持っていること、などが特徴的であった。日本留学観の変化においては、いわゆる「反韓感情」、地震・放射能などのように、韓国マスコミを通して抱いたと思われる対日イメージは、日本留学後にそのイメージが薄らいでいるケースが多く、「反韓感情」や物価などの対日イメージは、日本留学後に、マイナスイメージがプラスイメージに変わっていることがわかった。また、日本留学前に、日本語、日本人の性格や気質、放射能、地震、反韓感情に関心が強いが、このような対日イメージは、周辺の人から聞いた情報やマスメディアから影響を受けたと考える傾向が比較的強いことがわかった。

【キーワード】 韓国人の日本留学観、PAC分析法、認知面、情意面

1. 研究目的

本研究は、外国人と日本人がお互いをどのように理解し評価しているのかについて、個人別態度構造分析法(Analysis of Personal Attitude Construct : PAC分析法)を用いて、認知的・情意的観点からその変化⁽¹⁾を探る一連の研究の一部である。本稿では、韓国人の日本留学に対するイメージを調べるために、短期留学生3名を対象に、留学前と留学中に2回、PAC分析を実施し彼らの日本留学観とその変化を探った。

2. 研究方法

調査は次の手順にしたがって行った。まず、被調査者に以下の刺激語を与え、そのイメージについて思いつくままに記入してもらった。

【刺激語】 「あなたは『日本留学』についてどんなイメージを持っていますか。思い浮かんだ言葉やイメージを、思い浮かんだ順に記入してください。言葉でも短い文でも構いません。」

その後、そのイメージを重要と思われる順序に並べさせ、さらにそれぞれのイメージの組み合わせが、直感的イメージでその意味内容においてどの程度近いのかを7段階尺度で評定してもらった。この尺度での回答を基に、ウォード法でクラスター分析し、その結果に対する対象者自身の解釈を求めた。連想項目のイメージについて、プラスイメージの場合は (+)、マイナ

スイメージの場合は (-)、どちらともいえない場合は (0) の記号を記入してもらった。

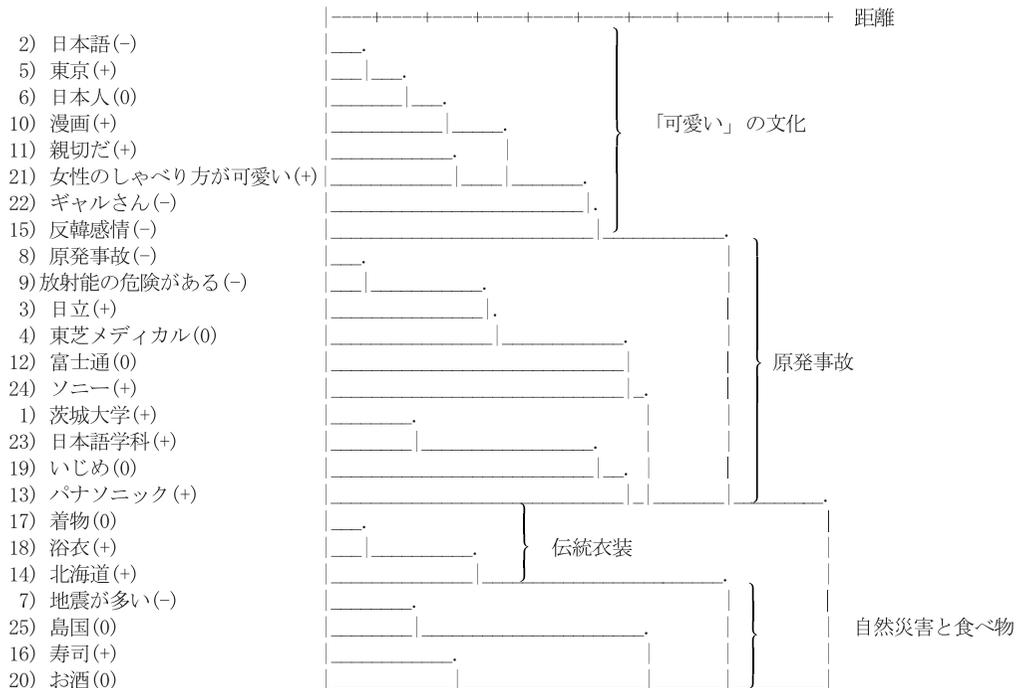
1 回目の調査は、来日直前の 2013 年 3 月～4 月にかけて実施し、来日後、約 5 か月が経過した時点の 2013 年 8 月～9 月にかけて 2 回目の調査を実施して来日後の留学観の変化を探った。2 回目の調査では、1 回目の調査で被調査者自身が解釈した日本留学観に関する各クラスターの内容を文書 (韓国語) で示し、日本留学前後の変化について述べてもらった。さらに、調査はすべて韓国語で実施し筆者が日本語訳をした。

3. 結果と考察

ここでは、まずクラスター分析の結果を示し、その結果に対する被調査者自身の解釈を記述し、クラスター分析の結果と被調査者の解釈について考察を行う。

3.1 被調査者 A の結果

2 回目の調査時の被調査者 A (以下、「A」とする) の個人属性は次の通りである。① 韓国人②女性③20 代④交換留学生⑤日本滞在歴 5 か月⑥日本人との接触度合い: よくある。A の 1 回目の調査時のクラスター分析の結果は図 1 の通りである。



(1) 左の数値は重要順位

(2) 各項目の後ろ () 内の符号は単独でのイメージ

図 1 A のデンドログラム

クラスター1は『2)日本語(-)～15)反韓感情(-)』の8項目でクラスター名は『「可愛い」の文化』とした。1回目は「日本についての基本的なキーワードで、日本人、日本というと真っ先に思い浮かぶイメージだ。日本に来る前から日本人は親切で、人に迷惑をかけまいとする気持ちが強いと聞いていた。また、一部の右翼勢力が反韓感情を持っていて、その表現が過激だとニュースで聞いたことがある」、2回目は「変化はない」と、解釈した。

クラスター2は『8)原発事故(-)～13)パナソニック(+)]の10項目でクラスター名は「原発事故」とした。1回目は「私が知っている日本の有名な会社や最近の事件事故についてのイメージだ。茨城県の隣に福島県があるが、そこで原発事故が起きた。韓国から放射能に対する恐怖心を抱いたまま日本に来た」、2回目は「変化はない。放射能被曝は、すぐには体調が悪くならないし、見た目ではわからないため、やはり日本で生活して不安だった」と、解釈した。

クラスター3は『17)着物(0)～14)北海道(+)]の3項目でクラスター名は「伝統衣装」とした。1回目は「日本の伝統衣装で、お腹の部分に着物の生地をくるくる巻いて着るのが特徴だ。日本の着物の裾の部分が狭いため、歩きにくいように見えるが、華やかな花模様が印象的だ」、2回目は「変わらない」と、解釈した。

クラスター4は『7)地震が多い(-)～20)お酒(0)]の4項目でクラスター名は「自然災害と食べ物」とした。1回目は「日本の地理的特徴と、個人的に行ってみたいところだ。日本は地震が多いと聞いた。韓国でも最近地震がたびたび起きるが日本程ではない。また、日本の食べ物の中で一番有名なものが寿司だ。その他に代表的なものとして、日本酒が思い浮かぶ」、2回目は「幸い日本に在る間に、大きな地震はなかった。日本の寿司は安くて美味しかった。高いところの寿司はもっと美味しかった。でも、寿司は、放射能に汚染された食品かもしれないからやはり気になる」と、解釈した。

各クラスター間の比較^②においては、クラスター1と2の比較は「1は日本と聞いて思い浮かぶキーワードで、2は日本生活で関心のあるキーワードだ」、クラスター1と3の比較は「日本に来てお祭りの時に女性が浴衣を着ているのをよく見かけたが、可愛くて小股で歩く姿が優美だった」、クラスター3と4の比較は「日本の衣装と地理的な特徴と日本の伝統衣装と伝統料理に対するイメージだ」と、解釈した。

全体のイメージについては「全体的に、日本という国に対するイメージが多い。これらのイメージは韓国のマスメディアの影響を強く受けたと思われる」と、解釈した。

表1 Aの対日イメージとそのきっかけ

	イメージ項目	イメージ形成のきっかけ・媒体など
1	2)日本語(-)	授業を受けて
	5)東京(+)	旅行してみても
	6)日本人(0)	いい人も嫌な人もいると思うから
	10)漫画(+)	個人的にいいと考えるから

	11) 親切だ(+)	周りの人から話を聞いて
	21) 女性のしゃべり方が可愛い(+)	周りの人から話を聞いて
	22) ギャルさん(-)	実際に見たことがあるから
	15) 反韓感情(-)	周りの人から話を聞いて
2	8) 原発事故(-)	韓国で報道を聞いて
	9) 放射能の危険がある(-)	報道で聞いて実際に恐怖を感じる
	3) 日立(+)	周りの人から話を聞いて
	4) 東芝メディカル(0)	よくわからない
	12) 富士通(0)	よくわからない
	24) ソニー(+)	周りの人から話を聞いて
	1) 茨城大学(+)	留学するから
	23) 日本語学科(+)	実際に周りの人と生活してみても
	19) いじめ(0)	よくわからない
	13) パナソニック(+)	いい製品を使ってみて
3	17) 着物(0)	実際に見たことはない
	18) 浴衣(+)	実際に見たことはない
	14) 北海道(+)	周りの人から話を聞いて
4	7) 地震が多い(-)	報道で聞いて
	25) 島国(0)	本などで習ったから
	16) 寿司(+)	実際に食べたことがあるから
	20) お酒(0)	よくわからない

表1は、Aの対日イメージとそのきっかけを表したものである。対日イメージ項目のうち、Aが来日前に「日本留学」を考える際に重要と判断した上位3項目は、『1)茨城大学(+)]』『2)日本語(-)]』『3)日立(+)]』であることから、Aが留学する大学とそこで使われる言語である日本語に関心が強いことがわかる。

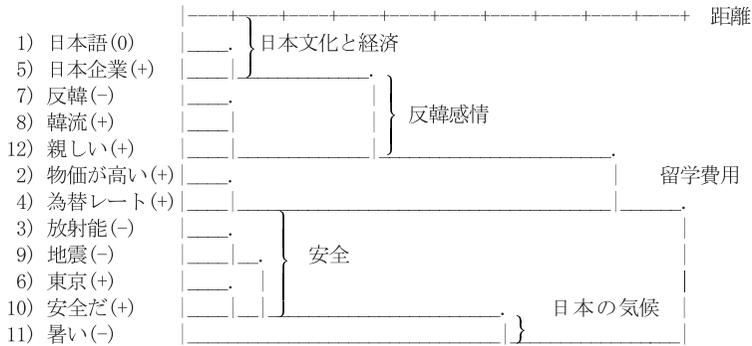
プラスイメージとマイナスイメージの項目数の比較では、25項目のうち、「プラスイメージ」が12項目、「マイナスイメージ」が6項目、「どちらともいえない」が7項目とマイナスイメージが比較的多い。特に、『15)反韓感情(-)]』や『8)原発事故(-)]』『9)放射能の危険がある(-)]』『7)地震が多い(-)]』などからわかるように、日本人の国民感情や地震・放射能についてはマイナスイメージを有していることがわかる。

Aの対日イメージとそのきっかけについては、実際の経験によるイメージというより、書物、マスメディア、周りの人から聞いた情報による対日イメージが多いことが特徴的である。特に、地震や放射能については、韓国のマスメディアの影響が大きいようである。

3.2 被調査者Bの結果

2回目の調査時の被調査者B(以下、「B」とする)の個人属性は次の通りである。①

韓国人②男性③20代④交換留学生⑤日本滞在歴5か月⑥日本人との接触度合い：よくある。Bの1回目の調査時のクラスター分析の結果は図2の通りである。



- (1) 左の数値は重要順位
- (2) 各項目の後ろ () 内の符号は単独でのイメージ

図2 Bのデンドログラム

クラスター1は『1)日本語(0)、5)日本企業(+)]の2項目でクラスター名は「日本文化と経済」とした。1回目は「個人的には日本企業に就職を希望している。日本企業に就職するためには、当然日本語と日本文化に関する理解が必要だ。日本の経済や文化のようなイメージが集まったグループだ」、2回目は「日本に来てみると思ったより景気がいいと感じた。特に東京都内は、以前よりも活気があるように見えた。ただし、電子産業が大きく低迷している」と、解釈した。

クラスター2は『7)反韓(0)~12)親しい(+)]の3項目でクラスター名は「反韓感情」とした。1回目は「反韓感情と韓流はコインの裏と表の関係だ。最近、新大久保での反韓デモとそれに反対するデモは、韓国で大きな話題になった。日本は近くて交流が多いため、留学する人も多く身近に感じられたが、反韓デモや韓流の影響で韓国人を見る日本人の目が従来とは違うように思われる」、2回目は「反韓感情が大きな問題ではないと思った。インターネットではやはり反韓感情が強いが、韓国でも反日運動があるように、あまり気にならない。むしろ、日本での韓流の影響が根強く、留学生活にプラスだった」と、解釈した。

クラスター3は『2)物価が高い(+)、4)為替レート(+)]の2項目でクラスター名は「留学費用」とした。1回目は「日本は物価が高いというのが韓国では常識だ。だから、日本に留学したら高い費用がかかると思われている。交換留学生に決まった時に、かなり円高だったから心配だったが、最近円安になって少しはよくなった。今は、日本留学は高い費用がかかるとは思わなくなった」、2回目は「為替レートが年初から円安になったため、韓国で大学に通うよりも費用が少なく済む。交通費は日本のほうがかなり高いが、その他の食料品や日用品は韓国より高くない。日本留学は高い費用がかかると考える必要はないと思う」と、解釈した。

クラスター4 は『3)放射能(-)~10)安全だ(+)]の4項目でクラスター名は「安全」とした。1回目は「最近、韓国では日本に行くと言うと必ず、放射能は大丈夫か、と聞かれる。日本は治安をはじめ社会は安定しているが、地震などの自然災害のリスクは大きいと思う」、2回目は「思ったより日本人は放射能を気にしない。韓国のニュースで報道されているように、やはり放射能は心配だ。そのため、食品を買うときは原産地を確認する。最初は地震が頻繁に起きて驚いたが、最近落ち着いているため、安心している」と、解釈した。

クラスター5 は『11)暑い(-)]の1項目でクラスター名は「日本の気候」とした。1回目は「日本は太平洋に接していて、ソウルより緯度が低いため、ソウルに比べて蒸し暑い」、2回目は「思ったよりは暑くないが、湿度が非常に高い」と、解釈した。

各クラスター間の比較においては、クラスター1と2の比較は、「2つとも日本に対するイメージという意味では同じだが、クラスター2は最近話題になっているため、韓国人としては敏感に感じてしまう」、クラスター1と3の比較は、「日本企業に対する好感度は、韓国国内の日本製品のイメージと関係が深い。日本の反韓デモの影響で韓国でも日本製品の不買運動が多少起きたように、その国の企業と商品は関係が深い」、クラスター1と4の比較は、「日本企業の本社は殆ど関東地方に集まっていて、放射能や地震のような自然災害の危険があるため、安全ではない」、クラスター2と3の比較は、「円安になると韓国からの訪問客が増えて、逆に円高になるとその訪問客が減る。日本からの韓国への訪問客が減ると、韓流に対する関心も自然と薄くなり、その影響も弱くなると考える」と、解釈した。

全体のイメージについては、1回目は「特定の言葉でまとめることはできないが、日本に対するイメージがよく表れていると思う。日本の文化や経済に対してはポジティブなイメージが強いが、最近起きている自然災害や反韓デモなどに対してはネガティブなイメージが強い」、2回目は「日本に来て、それまでのネガティブなイメージが多少ポジティブなイメージに変わった部分もある。特に留学費用や反韓感情についてはポジティブなイメージに変わった」と、解釈した。

表2 Bの対日イメージとそのきっかけ

	イメージ項目	イメージ形成のきっかけ・媒体など
1	1)日本語(0)	(来日前) ゲームやアニメーション、日本の大衆文化を通して。実際に学んでみると面白い。まだ、わからない日本語表現が多く、漢字の読み方が多様でとても難しい。 (来日後) (+)イメージが(0)に変わった。
	5)日本企業(+)	(来日前) 電子産業は没落したイメージが強いが自動車の部品などは世界最高水準だ。実際に日本企業でアルバイトをしたことがあるが、自由な雰囲気良かった。 (来日後) 景気がいいと思うが電子産業は苦戦しているように見える。
2	7)反韓(-)	(来日前) 最近、新大久保で反韓デモが何度もマスコミで報道されたため、

		多少世論が悪くなった。 (来日後) 実際に日本に来てみると全然感じられない。 「マイナスイメージ」が「どちらともいえない」に変わった。
	8) 韓流(+)	(来日前) 日本でチャンゴンソク、カラなどのスターのグッズが多いことに驚いた。過去は日本の文化が韓国に一方的に流入する印象を受けたが、最近はお互いに影響し合うというイメージが強い。 (来日後) 韓流に関心のある学生が思ったより多く、まだ根強く続いていると思った。また、韓国に好感を持っている人も多かった。
	12) 親しい(+)	(来日前) 周りに日本に旅行や留学をする人が多い。 (来日後) 細かい面での違いはあるものの、西洋のように考え方が全く違うわけではないため楽だ。
3	2) 物価が高い(-)	(来日前) 交通費と食費が韓国に比べて非常に高い。2週間の旅行でかなりの費用がかかったことを覚えている。 (来日後) 為替レートのお蔭で、交通費を除いて物価が高いと思わなくなった。韓国が異常に物価が高いと感じる。「マイナスイメージ」が「プラスイメージ」に変わった。
	4) 為替レート(+)	(来日後) 円高が是正されたため、良かったと思う。円安で滞在費用がかなり安くなった。
4	3) 放射能(-)	(来日前) 私は気にしないが周りの人に放射能のことをいつも聞かれるからネガティブなイメージだ。報道で福島県産の水産物や東京の放射能数値が高いとよく聞く。 (来日後) 現地の人はそれほど気にしないようだが、私はやはり気になる。
	9) 地震(-)	(来日前) 阪神大震災の報道で3.11地震など地震のイメージが強い。 (来日後) 一時地震が頻繁に起きていたから不安だった。
	6) 東京(+)	(来日前) <u>何度か行ったことがある</u> 、現代的な都市で個人的には親近感がある。
	10) 安全だ(+)	(来日前) 日本の治安は世界最高水準と <u>周りの人から聞いた</u> 。 (来日後) 実際に治安が良かった。
5	11) 暑い(-)	(来日前) 北海道以外は暑いと <u>周りの人から聞いた</u> 。 (来日後) 暑いというより湿度が高い。

表2は、Bの対日イメージとそのきっかけを表したものである。対日イメージ項目のうち、Bが来日前に「日本留学」を考える際に重要と判断した上位3項目は、『1)日本語(0)』『2)物価が高い(+)'』『3)放射能(-)』であることから、留学先で使われる言語である日本語、生活費や放射能問題などの留学先大学の生活環境について関心が高いことがわかる。

プラスイメージとマイナスイメージの項目数では、12項目のうち、「プラスイメージ」が6項目、「マイナスイメージ」が5項目、「どちらともいえない」が1項目である。BもA同様、地震と放射能(『9)地震(-)』『3)放射能(-)』)に対しては、マイナスイメージを持っている。また、反韓感情(『7)反韓(-)』)に対してはマイナスイメージを持っている一方で、日本に親

しみ（『12親しい(+)]）も持っていることから、複雑な対日イメージを有している様子が窺える。

Bの対日イメージとそのきっかけについては、表2の下線部で示したように、実際の経験によるイメージと考える傾向が強いが、反韓感情や、放射能・地震については報道を通してそのイメージを抱くようになったと回答していることから、韓国国内のマスコミの影響を少なからず受けていると推測される。

3.4 被調査者Cの結果

2回目の調査時の被調査者C(以下、「C」とする)の個人属性は次の通りである。①韓国人②女性③20代④交換留学生⑤日本滞在歴5か月⑥日本人との接触度合い：よくある。Cのの1回目の調査時のクラスター分析の結果は図3の通りである。

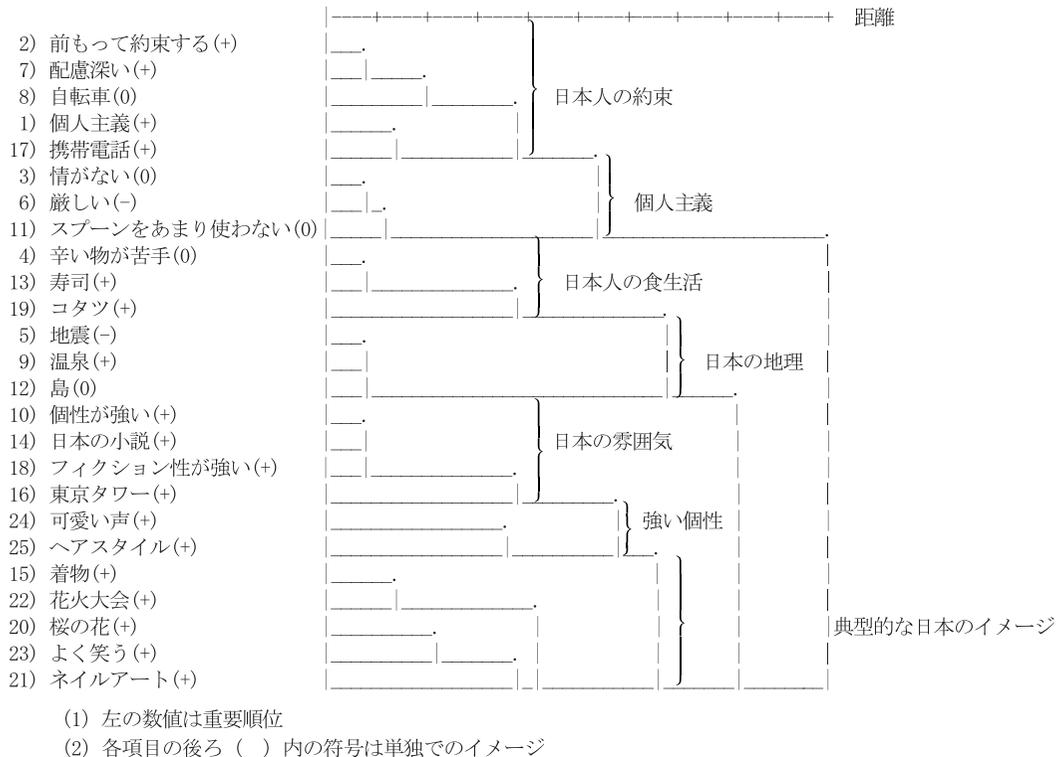


図3 Cのデンドログラム

クラスター1は『2前もって約束する(+)-17携帯電話(+)]の5項目でクラスター名は「日本人の約束」とした。1回目は「日本人は皆約束をよく守ると聞いた。相手との約束を守るために必要なことだ」、2回目は「来日前は、日本人は前もって約束して勝手に変更しないと思っていたがそうでもなかった。一日前にキャンセルすることもあった。でも、相手に迷惑がかからないように配慮していた」と、解釈した。

クラスター2は『3)情がない(0)～11)スプーンをあまり使わない(0)』の3項目でクラスター名は「個人主義」とした。1回目は「他人に迷惑がかからない範囲で行動して、情がなく、個人主義の傾向が強い」、2回目は「日本人に情がないというのは一度も感じたことがない。むしろ韓国人より情に厚いと感じられるくらい優しい。しかし、日本人は厳しいというイメージもある。例えば、携帯電話の契約や解約時にはかなり厳しいと思った。また、個人主義は、表には現れないが、ある程度は感じられる」と、解釈した。

クラスター3は『4)辛い物が苦手(0)～19)コタツ(+)]の3項目でクラスター名は「日本人の食生活」とした。1回目は「日本人の生活の様子だ」、2回目は「イメージは変わっていないが実体験ができて理解が深まった。日本には寿司屋が多く、冬は実際にコタツを使用することをホームステイで知った。また、ラーメンを食べに行くと、日本人は辛い物が苦手だと感じた」と、解釈した。

クラスター4は『5)地震(-)～12)島(0)』の3項目でクラスター名は「日本の地理」とした。1回目は「日本の地理的な特徴で地震が多い」、2回目は「日本に来る前は、マスコミで原発事故を見たから日本というと地震が思い浮かんだ。しかし、日本に来て何か月間かは、地震がなかったためか、地震の危険性は低いと感じられるが、いつ地震が起きるか少し不安だ」と、解釈した。

クラスター5は『10)個性が強い(+～16)東京タワー(+)]の4項目でクラスター名は「日本の雰囲気」とした。1回目は「日本人の特徴をよく表している項目だ」、2回目は「日本のドラマはフィクション性が高いと思っていたが、あまり感じられない。日本人の服は、素材が他の部分とよくマッチしていて個性が強いと思う」と、解釈した。

クラスター6は『24)可愛い声(+), 25)ヘアスタイル(+)]の2項目でクラスター名は「強い個性」とした。1回目は「日本人は他人に可愛く見せようとしていると思う」、2回目は「話をする時に可愛い声で話すのが日本では普通だ。ヘアスタイルは種類が多く、髪を染める色も韓国にはない色々なものがある」と、解釈した。

クラスター7は『15)着物(+～21)ネイルアート(+)]の5項目でクラスター名は「典型的な日本のイメージ」とした。1回目は「日本というと真っ先に思い浮かぶイメージだ」、2回目は「着物や浴衣などの伝統衣装は花火の時に着たりして、韓国より伝統衣装を着る機会が多い。ネイルアートは派手で種類が多いと感じた」と、解釈した。

各クラスター間の比較においては、クラスター1と2の比較は「クラスター1と2は他人を思いやるという点で似ている」、クラスター1と6の比較は「可愛い声は相手に配慮して傷つけないように努力しているためだと思う」、クラスター2と3の比較は「2の個人主義と違って、3は一緒に何かをするというイメージだ」、クラスター3と4の比較は「3は4が原因で生まれた結果だと思う」、クラスター3と7の比較は「日本というと、真っ先に思い浮かぶイメージだ」と、解釈した。

全体のイメージについては、1回目は「日本人は一見個人主義者に見えるが、それとは

反対に、皆と何かを一緒にやることも好きだ」、2 回目は「一人で何かをするのも好きだが、皆で何かをするのも好きだ。日本人は情がないとか、日本人は厳しいとかのイメージは留学に来て一度も感じたことがなかったため、そのイメージは変わった」と、解釈した。

表3 Cの対日イメージとそのきっかけ

	イメージ項目	イメージ形成のきっかけ・媒体など
1	2)前もって約束する(+)	周りの人から聞いて
	7)配慮深い(+)	ドラマを通して
	8)自転車(0)	本を読んで
	1)個人主義(+)	周りの人から聞いて
	17)携帯電話(+)	ドラマを通して
2	3)情がない(0)	ドラマと本を通して
	6)厳しい(-)	ドラマを通して
	11)スプーンをあまり使わない(0)	ドラマと本を通して
3	4)辛い物が苦手(0)	実際に日本人を見て
	13)寿司(+)	実際に経験して
	19)コタツ(+)	ドラマと本を通して
4	5)地震(-)	マスコミを通して
	9)温泉(+)	実際に経験して
	12)島(0)	本を読んで
5	10)個性が強い(+)	①実際に日本人を見て②ドラマを通して
	14)日本の小説(+)	実際に経験して
	18)フィクション性が強い(+)	ドラマを通して
	16)東京タワー(+)	マスコミと本を通して
6	24)可愛い声(+)	実際に日本人を見て
	25)ヘアスタイル(+)	ドラマを通して
7	15)着物(+)	①マスコミを通して ②授業で習って
	22)花火大会(+)	①マスコミを通して②実際に経験して
	20)桜の花(+)	実際に経験して
	23)よく笑う(+)	ドラマを通して
	21)ネイルアート(+)	実際に経験して

表3は、Cの対日イメージとそのきっかけを表したものである。対日イメージ項目のうち、Aが来日前に「日本留学」を考える際に重要と判断した上位3項目は、『1)個人主義(+』『2)前もって約束する(+』『3)情がない(0)』であることから、日本人の性格や気質に関心が強かったようだが、前述のクラスター解釈にもあるように、日本人に対するネガティブなイメージが、来日後にはそのイメージが無くなるか、プラスイメージに変わっていることが特徴的な点である。

プラスイメージとマイナスイメージの項目数の比較では、25項目のうち、プラスイメージが18項目、「マイナスイメージ」が2項目（『5』地震(-)、『6』厳しい(-)）、どちらともいえないが5項目と、プラスイメージが比較的多い。CもA、B同様、地震に対してはネガティブなイメージを持っていることがわかる。

Cの対日イメージとそのきっかけについては、ドラマ（10項目）を通して抱いたと考える対日イメージが多く、実際の経験や周りの人から聞いた話を通して抱くようになったと考える対日イメージも少なくない。

4. まとめと考察

ここでは、被調査者3人の共通した日本留学観について述べてから、日本留学前後の日本留学観の変化を探る。

4.1 先行研究と共通の日本留学観について

まず、韓国人留学生に共通した日本留学観について述べる。

(1) 「反韓感情」に対するマイナスイメージ

Aの「15」反韓感情(-)、クラスター1の1回目の「…一部の右翼勢力が反韓感情を持っていて、その表現が過激だとニュースで聞いたことがある」の解釈、Bの「7」反韓(-)、クラスター2の1回目の「最近、新大久保での反韓デモとそれに反対するデモは、韓国で大きな話題になった」の解釈、「…特に留学費用や反韓感情についてはポジティブなイメージに変わった」の解釈、クラスター1と3の比較の「…日本の反韓デモの影響で韓国でも日本製品の不買運動が多少起きたように…」の解釈、などからAとBは日本の反韓感情についてはネガティブなイメージを持っていることがわかる。

(2) 地震や原発事故に対する不安

Aの「8」原発事故(-)「9」放射能の危険がある(-)、クラスター2の1回目の「茨城県の隣に福島県があるが、そこで原発事故が起きた。韓国から放射能に対する恐怖心を抱いたまま日本に来た」の解釈と、2回目の「変化はない。放射能被曝は、すぐには体調が悪くならないし、見た目ではわからないため、やはり日本で生活して不安だった」の解釈、クラスター4の2回目の「…寿司は、放射能に汚染された食品かもしれないからやはり気になる」の解釈、Bの『3』放射能(-)『9』地震(-)、クラスター4の1回目の「最近、韓国では日本に行くと言うと必ず、放射能は大丈夫か、と聞かれる。日本は治安をはじめ社会は安定しているが、地震などの自然災害のリスクは大きいと思う」の解釈、2回目の「思ったより日本人は放射能を気にしない。韓国のニュースで報道されているように、やはり放射能は心配だ。そのため、食品を買うときは原産地を確認する。最初は地震が頻繁に起きて驚いたが、最近は落ち着いているため、安心している」の解釈、クラスター1と4の比較の「日本企業の本社は殆ど関東地方に集まっていて、放射能や地震のような自然災害の危険があるため、安全ではない」の解釈、Cの『5』地

震(-)』、クラスター4の1回目の「日本の地理的な特徴で地震が多い」の解釈と、2回目の「日本に来る前は、マスコミで原発事故を見たから日本というと地震が思い浮かんだ。しかし、日本に来て何か月間かは地震がなかったためか、地震の危険性は低いと感じられるが、いつ地震が起きるか少し不安だ」の解釈、などから全員が地震や放射能に対してかなり不安を抱えていることがわかる。

(3) 優しくて親切的な日本人像

Aの『11) 親切だ(+)]』、クラスター1の1回目「…日本にくる前から日本人は親切で、人に迷惑をかけまいとする気持ちが強いと聞いていた」、Cの『7) 配慮深い(+)]』、クラスター2の2回目「日本人に情がないというのは一度も感じたことがない。むしろ韓国人より情に厚いと感じられるくらい優しい…」の解釈、などから優しくて親切的な日本人像を有していることがわかる。日本人の思いやりや優しさについては、ブルガリア人の対日観(印刷中)、韓国人の対日観(安他 2013, 安 2010a, 安 2009, 安 2008)、台湾人の対日観(藤原 2009)、中国人の対日観(安 2013, 安 2010b)、ベトナム人の対日観(安 2011)、中国少数民族の対日観(安 2012)にも同様の結果が得られている。

4.2 日本留学観の変化について

ここでは、日本留学前後の留学観の変化について探る。

4.2.1 日本留学観の変化が見られなかった場合

Aのクラスター『「可愛い」の文化』、クラスター2の「原発事故」、クラスター3の「伝統衣装」は日本留学前後で変化がみられなかった。

4.2.2 日本留学観の変化がみられた場合

(1) 特定のイメージが薄らいだケース

Bの「反韓感情」について、クラスター2の2回目の「反韓感情が大きな問題ではない」と思った。インターネットではやはり反韓感情が強いが、韓国でも反日運動があるように、あまり気にならない」の解釈、「留学費用」について、クラスター3の2回目の「為替レートが年初から円安になったため、韓国で大学に通うよりも費用が少なくて済む。交通費は日本のほうがかなり高いが、その他の食料品や日用品は高くない。日本留学は高い費用がかかると考える必要はないと思う」の解釈、「安全」について、クラスター4の2回目の「思ったより日本人は放射能を気にしない…最初は地震が頻繁に起きて驚いたが、最近は落ち着いているため、安心している」の解釈、「日本の気候」について、クラスター5の2回目の「思ったよりは暑くない…」の解釈などから来日前のイメージが薄らいでいる傾向が窺える。

Cのクラスター4の「日本の地理」について、2回目の「…日本に来て何か月間かは地震がなかったためか、地震の危険性は低いと感じられるが…」の解釈、クラスター5の「日本の雰囲気」について、2回目の「日本のドラマはフィクション性が高いと思っていたが、あま

り感じられない」の解釈、などから全員が来日前に韓国で抱いていたイメージが、日本留学後にそのイメージが薄らいでいることがわかる。

(2) 特定のイメージが無くなったケース

Cの「個人主義」について、クラスター2の2回目の「日本人に情がないというのは一度も感じたことがない。むしろ韓国人より情に厚いと感じられるくらい優しい…個人主義は、表には現れないが、ある程度は感じられる」の解釈、「情のない日本人」のイメージが、留学中に無くなっていることがわかる。

(3) 特定のイメージに対する見方が変わったケース

Bの「日本文化と経済」について、クラスター1の2回目の「日本に来てみると思ったより景気がいいと感じた。特に東京都内は、以前よりも活気があるように見えた」の解釈から、日本の景気に対する見方が変わっていることがわかる。

(4) プラスイメージとマイナスイメージの変化

Bの表2の『7)反韓(-)』が「マイナスイメージ」から「どちらともいえない」に変わった点、『2)物価が高い(-)』が「マイナスイメージ」から「プラスイメージ」に変わった点などは、来日後にマイナスイメージがプラスイメージに変わったことがわかる。

5. 終わりに

以上、本稿では韓国人3人の日本留学観とその変化について探ってみた。その結果、1)「反韓感情」に対するマイナスイメージ、2)地震や原発事故に対する不安、3)優しくて親切な日本人に対するプラスイメージが特徴的であった。日本留学観の変化においては、多くのイメージが日本留学を通して変化した(している)と考えており、特に、「反韓感情」、地震・放射能など韓国のマスコミを通して抱いたと思われる対日イメージが薄らいだ(薄らいでいる)ケースがあった。また、特定のイメージが無くなったり、特定のイメージに対する見方が変わったりしたケースもみられた。さらに、「反韓感情」や物価などの対日イメージは留学中に、マイナスイメージからプラスイメージに変わった点は興味深い。

韓国人短期留學生が日本留学を考える際に重要と判断したイメージ項目から、日本語と日本人の性格や気質、放射能・地震などの留学先の環境、日本人の韓国に対する反感に関心が強いことがわかった。また、日本企業、日本人の親切さ・配慮、日本人の可愛さ、寿司に対してはプラスイメージを持っているのに対して、原発事故と放射能問題、地震、反韓感情に対してはマイナスイメージを持っていることがわかった。さらに、来日前の対日イメージは、本人の経験に基づくというより、周辺の人やマスメディアの影響を受けやすく、昨今の原発や放射能問題のイメージや反韓のイメージは韓国国内のマスコミの影響を強く受けていると考えられる。

付記：本研究は平成24年～平成27年度科学研究費補助金(基盤研究(C)研究代表者：安龍洙 課題番号 24520566)による研究成果の一部である。

注

- (1) 本研究における「変化」とは、ある対象に対する被調査者自身によるイメージや態度について振り返り、それを評価したものを指す。
- (2) 各クラスター間の比較1回目の調査のみ実施した。

参考文献

- 安龍洙・アントン・アンドレエフ(印刷中)「ブルガリア人の日本留学前後の対日観の変化に関する一考察」『茨城大学留学生センター紀要12』
- 安龍洙・宋有宰(2013)「外国人の対日観の変化に関する研究-日本滞在歴の長い韓国人留学生の場合-」『茨城大学留学生センター紀要11』 pp. 81-96
- 安龍洙(2012)「外国人の対日観に関する研究-中国の少数民族出身者の場合-」『茨城大学留学生センター紀要10』 pp. 1-14
- 安龍洙(2011)「外国人の対日観に関する研究-ベトナム人留学生の場合-」『茨城大学留学生センター紀要9』 pp. 1-18
- 安龍洙(2010a)「外国人の対日観に関する研究-日本滞在歴の長い韓国人の場合-」『ユーラシア研究7(4)』 pp. 373-392
- 安龍洙(2010b)「外国人の対日観に関する研究-中国人非正規留学生の場合-」『茨城大学留学生センター紀要8』 pp. 1-17
- 安龍洙(2009)「外国人の対日観に関する事例研究-韓国人短期留学生の場合-」『茨城大学留学生センター紀要7』 pp. 1-13
- 安龍洙(2008)「韓国人留学生の対日観の変容に関する一考察-個人別態度構造分析法(PAC分析法)を用いて-」『留学生交流・指導研究10』 pp. 31-48
- 藤原智恵美(2009)「台湾人日本語話者の対日観に関する一考察-個人別態度構造分析法(PAC分析)による事例研究-」『日本学と台湾学8』 pp. 1-23、(台湾) 静宜大学